

穂 学

令和2年度

広州日本人学校 学校便り

[No. 10]

令和2年7月21日(火)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

「1学期を締めくくるにあたって」

1ヶ月遅れでスタートした令和2年度1学期ももうすぐ終わろうとしています。理事長はじめ各理事の皆様には、様々な視点から学校運営にご指導ご助言を賜りましたことに対し、心から感謝申し上げます。

さて、昨年度の1学期を思い出してみると、運動会や小学部6年生の修学旅行、児童会・生徒会活動や委員会活動、クラブ活動や部活動、JSG夏祭りなど様々な活動が行われました。このような縦や横の繋がりを意識した活動は、児童生徒の相互の関係性を緊密にするとともに、自分自身の役割を果たそうとする意欲と達成したときの自信につながります。

今年度は、どの学年も少ない人数ながら、一生懸命に学習や諸活動に頑張ってきました。各学級では一人一人を大切にしたい工夫、授業における様々な出番づくり、5年生以上で活動する委員会活動や小学部4年生以上のクラブ活動など、児童生徒が自らの頑張りの成果をアピールする場面をたくさんつくっています。昨年のような大人数の活動ではありませんが、児童生徒一人一人の子どもたちの頑張る姿は職員の何よりの励みになっています。

学期末を迎える中で、小学部2年生の音楽の授業を参観しました。「あの青い空のように」という歌に次のようなフレーズがあります。「喜びひろげよう、小さなぼくたちだけ、あの青い空のようにすみきった心になるように」「さみしさ忘れまい、小さなぼくたちだけ、あの青い空のようにすみきった心になるように」(3番省略)、心を込めて歌う素敵な歌が、そしてその「すみきった心」が日本にいる同級生に届くようにと願うばかりです。

現在、日本で学校に通う児童生徒も新しい環境で精一杯頑張っていることと思います。都道府県や市町村で違いもありますが、7月いっぱい授業があるところもあると聞いています。いつもと違う夏休みになるとは思いますが、健康に気をつけながら、目標と計画性をもって有意義な夏休みを過ごしてほしいものです。

